

「受け継がれる思い」

岩佐 隆典

最近では、誰も亡くなった方がいない新家さんのお宅で、ご家族が亡くなった時、すでにお仏壇があるという家庭は少なくなりました。ご家族の誰かが亡くなってから、お葬式の後でお仏壇を買い求める。これが一般の方の仏壇に関する認識ではないでしょうか。一般の方にとってはお仏壇とはお亡くなりになった先祖を供養するためのものであって、それ以外の目的はないということなのでしょう。したがって、誰も亡くなった方のいない家庭においては、お仏壇を買い求めるということはあるはずもないことですし、あつてはならないことなのでしょう。お仏壇とはあくまでも「死」に関連したものであり、「生」に関連したものではないと思われているようです。

しかしながら、親鸞聖人のお言葉として『歎異抄』には、「親鸞は父母の孝養のためとて、一返にても念仏もうしたること、いまだそうわらず」とあります。親鸞聖人は、先祖の追善供養のためにお念仏したことは一度もないとおっしゃっています。

以前は、新家を建てた時には、本家が新しいお仏壇を買い与える。もしくは本家が仏壇を新しいものに買い換え、今まで安置してきたお仏壇を新家に譲るなどして、新しく所帯を構えたら阿弥陀様をお掛けすることが当たり前として受け継がれてきました。

お仏壇に手を合わせ、お念仏するのは、亡くなられた方のためではなく、今を生きている私たちに対し、阿弥陀様の願いに早く気づきなさいと、先祖が親鸞聖人の思いを形として受け継いできた現れではないでしょうか。